

東京都 保護者会報

日本体育大学

2016
vol.

27

発行者 日本体育大学／東京都保護者会
nssu.apg.tokyo@gmail.com

タイトルロゴ 越水 春汀

2016年3月1日 発行

共生社会を構築するための スポーツの役割



日本体育大学
学長 谷釜 了正

〈スポーツ〉という言葉の語源をたどると〈遊び〉という言葉に行き着きますが、私はそのスポーツ（＝遊び）こそ人間の心身の健康にとって、ひいては人間の人生にとつてとても大切なものであると思っています。自動車のハンドルやブレーキに〈遊び〉が用意されています。この〈遊び〉はハンドルを〈切る〉ときやブレーキを〈踏む〉ときに力が作用しないこと、つまり役に立っていないことを意味しています。しかし役に立っていないこの〈遊び〉は急ブレーキや急ハンドルを防止して事故を未然に回避してくれる役割を果たしていることを忘れてはなりません。一見、役に立ちそうにありませんが、人間が生きていく上では遊びやスポーツはとても大切であるといわねばなりません。

長い人生の中で働いてばかりいると〈ゆとり〉が持てなくなり、〈運動不足〉をきたして生きがいを失ってまいります。スポーツを通して〈遊ぶ〉ことができれば、心身共に豊かな生活（人生）を過ごすことができます。スポーツができて

る〈ゆとり〉をつくれれば、スポーツを通して〈仲間〉ができ、仲間たちとの語りを通して不足した全身運動を適度に補償して〈健康〉を手にすることができましょう。これが日常化すれば、意識する、しないにかかわらず、老け込み（老化）を遅らせることができます。〈健康寿命〉の延びも期待できます。

私は日頃からスポーツは〈福祉〉であると思っています。年齢や性別に相応しい適度な運動を〈みんな〉で一緒に楽しむことができれば、みんながこぞって〈幸せ感〉を抱くことができるからです。福祉の〈福〉も〈祉〉もいずれも〈幸せ〉を意味しているのですから、スポーツによつてもたらされた〈幸せ感〉は、紛れもなく〈福祉〉の概念に包まれるでしょう。みんなのスポーツが、我が国でも推奨・奨励されて久しいといえますが、『スポーツ基本法』が制定され、スポーツ振興のための基本計画が示されてからは、スポーツは国民のみんなの権利となりました。若いも若きも、男性も女性も、そして障害がある人も、すべての人々がス

スポーツをする権利を得たことになりました。そのためスポーツの奨励を国だけでなく地方公共団体でも行政主導で積極的に取り組まねばならなくなりました。したがって〈生涯スポーツ〉を通して〈共生の社会〉を構築するための、国民的事業がすでに始まっているといえます。

二〇二〇年にオリンピックとパラリンピックが東京で開催されます。パラリンピックスポーツを介して心のバリアと諸施設設備のバリアをフリーにする準備を急いで進めねばなりません。本学はオリンピックだけでなく、パラリンピックを支える覚悟ですが、特にパラリンピックの支援は、新時代の共生社会を担う若者にとつて大切です。スポーツマンにして健常者たる本学の学生がパラリンピアンをお迎えし、彼らのへこころに響くおもてなしができるよう、今から準備しなければなりません。私は二〇二〇年に向けて本学が取り組んでいくべき大きな課題をここに見出し、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

目標に挑む力を
人生の選択にも活かすために



キャリア支援部門事務室
事務長 大山 茂

東京都保護者会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本学の教育、運営に格別のご高配を賜り有難うございます。

早速ですが、本学の就職状況及びび学生支援センターキャリア支援部門の学生支援について報告させていただきます。

まず、今年度の本学就職状況ですが、選考解禁日が八月に変更された影響は目立たず、例年並みの就職数で推移しています。公立学校教員採用試験においては二六名が合格しました。内訳は保健体育二名、養護教諭三名、特別支援学校・保健体育一名となっております。東京都保健体育(中高共通)については、一〇名が合格いたしました。(倍率五・〇倍)

また、企業就職については、体育・スポーツの分野に限らず、メーカー・商社・卸・小売・サービス等、幅広い業界への内定を獲得しています。本学学生の多くはスポーツを通じて、目標に挑む力、未知の領域へ挑戦する心を持っています。

しかし、本学学生の面接を担当した人事担当者様からは以下のようなご意見も頂戴しています。「本人が何をしたいのかわから

ない」「筆記試験を通過できない」「自分のことが話せない」という三点です。これらに共通していることは、「準備不足」です。前もって計画的に対策、準備、練習をしておくことが求められます。

我々は学生支援に際し、学生に伝えることがあります。それは、就職活動に決められた正解は無いということです。これは言い換えれば、学生の数だけ答えが存在するということとなります。一〇〇人いたら一〇〇通りの就職活動があります。自分の中の「正解」を見つけるためには、今まで過ぎてきた二〇数年間を振り返り、将来に向けて真剣に考えることが必要なのです。

就職は、人生の選択です。自身の人生の選択について三年生、四年生になってから始めなければいけないというルールはありません。入学後からでも積極的にキャリア支援部門を利用してもらいたいと考えています。キャリア支援部門では、キャリアカウンセラー資格を所持する職員、本学教員、更に元学校教員・校長経験者が在籍し、支援を行います。是非ご子息・ご令嬢に『キャリア支援部門を利用する』『行動を起こす』事をお話いただければ幸いです。

日本体育大学保護者会
ご挨拶

会長 福島 隆史

余寒の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は保護者会活動に對し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度もあと少しとなってまいりました。三月には卒業式を迎え、私を含め、卒業学年の保護者の皆様にとってはホッとするとともに、子どもたちが日体生として過ごしてきた四年間の思い出が甦る事と思います。

日体大での四年間は、学問的な知識を得ただけでなく、運動や競技を通して培った自己鍛錬への取り組み、他人との共同作業など教科書では学べない多くの経験を得られた事と思います。

競技スポーツでは、練習方法に正解はありません。勝利する事で結果的にその練習が正解だったと評価されます。正解のわからない中、厳しい練習に耐え、結果を出そうと頑張った経験は必ず社会に出て役立ちます。四年間やり遂げた事を誇りに、社会に飛び立つてもらいたいと思います。

東京都保護者会は、一四〇〇名にならんとする学生数を有しております。これ

は、全体の二割以上を占め、都道府県別ではトップの数字となります。大所帯の支部に相応しく、東京都保護者会役員のご尽力により、総会開催だけでなく、箱根駅伝応援や、キャンパス見学会など活発に活動していただいております。

ほとんどの保護者の皆様は、親元から子どもを日体大に通わせていらつしやるかと思えます。地方とは違い、子どもとのコミュニケーションも取りやすく、大学の情報も得やすい環境かとは思いますが、保護者会行事に参加して、直接大学や他の保護者の方々と接する事でより深く日体大を知っていただき、「日体ファミリー」の一員となつていただきたいと思います。そして、子どもたちが卒業してから日体大を応援し続け、日体ファミリーのままでいていただきたいと思えます。

二〇二〇年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。そこでは多くの日体生や同窓生が活躍する事でしょう。その時、日体ファミリーとして一体感をもって観戦いただければ、応援にも一層力が入る事と思います。そのためにも、まずは大学の事を知っていただくため、保護者会行事への積極的なご参加をお願いいたします。

最後になりましたが、東京都保護者会会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念しご挨拶とさせていただきます。

日本体育大学東京都同窓会

ご挨拶

会長 高田 幸一

冬至を過ぎても暖かい冬と言われているが、体調には十分注意され今後ともご理解ご協力をお願いします。また、平素より保護者会の皆様にご支援を賜り誠にありがとうございますとございます。

今年と同窓会内で、人が大きく入れ替わり非常に変化を求められる年でした。

その中で、教育支援委員会は、小橋川委員長、五石副委員長のもと、組織・運営化を図り資料報告や事前の研修も整備しました。今年度の課題をもとに次年度、短期・長期で解決を図りさらに次年度に活かしていきます。

また、大学の教職課程をとる学生の就職範囲も広がり、意識が大きく変化しています。教育実習の巡回指導もその学校、その学生に応じて指導しています。

二八年度、従来の中・高等学校教諭の教員採用試験に加え、第一次対策では、小学校教諭、養護教諭、特別支援学校志望の学生に対して早急の対応を次年度から展開します。また、第二次対策では、大学の支援室と協力し、日体魂を持った教員を目指す学生の育成に全力で支援しています。さらに「日体教学舎」とは、現役の二、三年生を教員としての幅広い識見を持つ日体生を育

成する展開を始めます。保護者会の皆様におかれましては、学生にもお伝え下さい。

東京都同窓会は、関東・北信越大会（一都一二県）が二八年一〇月に開催地になります。竹内副会長を中心とし企画・立案をしています。これも全国同窓会と保護者会のご協力無くしてはできません。是非、宜しくご支援お願いします。

広報委員会は、角杉副会長を中心に次年度、東京都同窓会のHPを立ち上げます。大学との調整を早急に図り、学生及び同窓生、保護者会へ定期的に事業や企画の情報を提供していきます。それにより会員の理解と参加を促し、会員獲得の拡大に全力を注ぎます。

絆が強い日体大です。東京都同窓会は、保護者会、全国同窓会と協力し、今までの人的財産と知的財産を活かすべく新たな企画・事業に展開を行います。そして企業の方々の活躍する場を提供し、協力し同窓会を発展させる決意です。

大学が大きな変化を遂げている今、会として将来を共に展望し、できることに最善を尽し同窓会員のため、学生のため全力で取り組む所存です。今後ともご理解ご協力をお願い致します。

日本体育大学保護者会

関東ブロック代表者会報告

副会長 田村 富子（二年保護者）



毎年各支部で主催される関東ブロック代表者会が、一〇月三日（土）に栃木県宇都宮市で開催されました。

今年の総学生数六三八四人、そのうちの関東ブロックは約六割の人数を占める大所帯です。茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県の各支部より活動状況や今後の予定についての報告がありました。東京都と神奈川県に比べて他県は役員になられる方の人数が少ない為、皆さんで色々な工夫をしながら保護者会活動を実施しているそうです。



大学からは、具志堅幸司体育学部長をお迎えして大学の近況をお話し頂きました。東京オリンピックに向けて多くの学生が関わっていくこと、学生に対する保護者の活動と大学の取組み等改めて実感することができました。報告会後の懇親会で具志堅先生と共に各県の皆様と交流することができ、とても有意義なひとときを共有できました。また、会場の手配をしてくださった茨城県の役員の皆様に、この場をお借りして心より感謝をし、御礼申し上げます。

キャンパス見学会・ キャリア支援講演会を 終えて

山田 文香（一年保護者）

今年のキャンパス見学会・講演会は、一〇月一日（日）、世田谷キャンパスで行われました。当日の朝は、少し強めの雨が降り、電車の遅れを心配しましたが、天気は回復し、見学会が開始される頃には、ほぼやんでいました。

参加人数は、役員を含めて二二〇人強。予定より少し減ってしまったものの賑やかな会になりました。各学年ともご夫婦での参加が多く、日頃、保護者会活動に参加の少ないお父さんが多かった事は、嬉しい限りでした。

見学会、昼食、講演会、茶話会と盛り沢山のスケジュールでした。トピックスを紹介します。

●二時～二時：キャンパス見学会

教育研究棟、グラウンド、スポーツ棟を大学職員に一時間程で案内して頂きました。

教育研究棟は、教室と研究室がズラリ。二階の図書館は、スポーツ中心の蔵書や雑誌、パソコンも配備され快適な空間で、一般にも公開されていました。一階は学食と学生支援センター、G階（地下一階でグラ

ウンドと直結）は、ロッカールーム、B階（地下二階）は、実験室と記念講堂です。記念講堂では、チャリダー部の練習風景を見学できて感激でした。

グラウンドは、思っていた以上の広さで、ソフトボール・ハンドボール、アメフトのコートがあり、人工芝で整えられていました。熱中症対策にミストシャワーが設置されているのには驚きました。

スポーツ棟には、剣道場、柔道場、ダンス場、相撲の土俵、プール、トレーニングセンター等、日体大ならではの充実した設備がいっぱいでした。メインアリー



ナでは、バスケットボール大会、剣道場では、他大学との交流試合が行われており、日曜日でも活気で溢れ、何ととっても、すれ違う学生の元気な挨拶が最高でした。

●二時～三時：昼食一階Nレストラン

昼食は、学食体験。人氣メニューの唐揚げ丼をペロリと平らげました。



唐揚げ丼



説明をしてくださったキャリア支援部門事務室の大山事務長

●三時～五時：キャリア支援講演会

滝澤康二同窓会会長、高田幸一東京都同窓会会長のご挨拶、大山茂キャリア支援部門事務室事務長および近藤智晴大学院教授による講演会が行われました。気になる就職情報や大学院情報に質問も多く出されました。

●一五時～一六時：茶話会

講師の先生方に、講演会で質問できなかった悩み事を相談しました。お茶とお菓子で最後まで盛り上がりました。

来年の見学会は、広大な横浜・健志台キャンパスで行われます。今年と同様に楽しい見学会になると思いますので、多くの方々に参加して頂きたいです。



集合写真



食堂での全体風景

第四九回 日体フェスティバル二〇一五

丸澤 貴子（一年保護者）

木々の葉が色づき始める頃、一〇月三日（金）～十一月一日（日）の三日間、日体フェスティバルを見に行つて来ました。今年のテーマである“FUN・FARE！”日体大の魅力であなただを笑顔にするの通り、あちこちで学生たちの元気な声が響き渡っていました。身体を使ったパフォーマンスを随所で見ることができました。日体大生の素の姿、活気あふれる魅力を間近で見えて、笑顔になることのできた素晴らしい日でした。

日体フェスティバルの見どころはなんとと言ってもミニ実演会、日体大伝統の応援スタイルである「エッサッサ」は男臭く、野太い声が地響きのように轟き、会場全体がピーンと糸が張ったように身が引き締まり、雷鳴を受けたように身体が震えました。

また今年も、体育学部・児童スポーツ教育学部・保健医療学部と三つの学部が揃う、第二回目のフェスということでした。



保健医療学部による無料体力測定会を行いました。毎年恒例の体力測定よりも踏み込んだ骨密度や体力年齢を測れるので、お年寄りから子ども達まで大勢の方が体験されていました。

そして、日体大ならではのマッスル王座決定戦もあり、筋肉隆々の見応えのあるシックスパックを見ての歓声が一段と祭りを盛り上げていました。

日体フェスティバルは、今年は建志台キャンパス、来年は世田谷キャンパスと両方のキャンパスを見学する良い機会であり、来年もまた楽しみみです。

体操部演技発表会

西本 満和子（一年保護者）

二月一九日（土）、国立代々木競技場第二体育館で体操部の演技発表会が行われました。体操部は国内外で多くの演技発表会を行っており、今年度の集大成でもあります。会場は満員で、立見も多く出ている中、司会の森末慎二さん・佐藤弘道さんのテンポよい進行で始まりました。武蔵野音楽大学とツルノリヒロ・グループなどの方々による生の演奏が胸に響いてきました。

いよいよ体操部の演技が始まりました。音楽と一体になり、ときに優しく、ときに力強く、ときに美しく、若さとパワーある躍動感の溢れる演技に一同引き込まれ、会場が一つになりました。高さのあるピラミッドを作る場面でも迫力とキレのある圧巻の演技でした。日々積み重ねてきた練習の成果でしよう。ほとんどの部員が未経験からのスタートだと聞き、驚きでもあり感動でもありました。



司会の森末慎二さん(左)と佐藤弘道(右)さん



ゲストのツルノリヒロさん(ヴァイオリン)とあんみ通(三味線)の二人



体操部の華麗なる演技



荒木先生の長年培われたチームワークや信頼関係、仲間との絆を伝承し、三宅先生の活力あるご指導を加味して今後さらなる飛躍を期待せずにはいられません。

第九二回箱根駅伝 六区の快進撃と 繋ぐたすきへの思い

岸野 容子（一年保護者）

第九二回箱根駅伝には、我が日体大は、就任一年目の渡辺監督のもと、予選会からの挑戦になりました。

予選会は四九校参加の中、本大会への出場権を争います。本大会とは違い、全員が一斉にスタートし、各チームの上位一〇人の合計タイムで競うため、選手が走り終えても、結果発表までは気が抜けません。

予選会当日は、雨交じりでコンディションの悪い中で行われましたが、見事、三位で勝ち上がり、本大会出場決定となり、と



にかくホツとしたのを覚えています。

それから約三ヶ月。選手達はどんなに厳しい練習を重ねて来たことでしょう。それは日体大のみならず、出場校全ての選手が、血のにじむ辛い練習に耐えてきたのだと思います。自信みなぎるその姿を見れば一目瞭然でした。まさに「相手にとって不足無し」です。

スタート前に、日体大は八位以内でゴールが目標と聞きました。予選会からの出場ですが、その高い志は応援のしがいがあります。

各校応援団の姿も見え、いよいよスタートです。例年よりも気温が高いようで、選手への影響が心配される中でのスタートとなりました。

「頑張れ！頑張れ！！」口から出る言葉は、もはやそれだけ。テレビの画面で、青と白

の日体大ユニフォームを探し、力強く走っている選手を見つける度に、なぜか涙が出ました。私は、テレビ観戦しながら箱根に移動し、日体大応援部と共に、往路五区の通過を待っていました。

芦ノ湖から吹く風は、強く冷たいものですが、選手を迎える応援部の応援は、熱く心に響きました。

やがて、山の上にヘリコプターの音がやって来ると間もなく、一位の選手が目の前を通過。その後、幾人かの選手も駆け抜けて行きました。早い！

「日体大は？」「いま何位？」

情報が錯綜する中、あつという間に、日体大の選手が一三位で山道を下って行きました。

大きな声援の中でも、選手の鼓動や息づかいが伝わってくる…そんな場所での往路応援でした。

復路では、六区で日体大の快進撃!! 私は箱根湯元の沿道でそれを見ました。

山道を走って来たとは思えない、ブレのない、しつかりとした走りは、目を引くものがありました。後に、区間新記録を出したと聞き、鳥肌が立つ思いでした。

その後、六区の快進撃以降も大きく順位を落とす事なく、繰り上げスタートのチームも出る中、皆、頑張つて最後まで襷を繋ぎ、完走してくれました。

ただ、復路では一斉スタートだったため、最終の順位確定までは安心出来ません。そ

んな中、日体大総合七位という発表。見事、目標達成です。高い目標を現実にした選手達、本当におめでとうございます。シード権を獲得し、来年度の本大会出場も決定しました。

陸上競技部・応援部の皆、大学の関係者の皆様、そして、駅伝を支える皆様や沿道で応援してくださいました皆様への感謝を忘れずに、来年度も激走する姿を期待しています。

感動をありがとうございました。



第二八回全日本高校・大学 ダンスフェスティバル IN神戸

八月五日(水)〜八日(土)
北野 仁美(二年保護者)

猛暑に負けないような、熱い戦いのダンスフェスティバルでした。初日の予選から神戸入りし、高校予選部門九五校から決勝四〇校。大学予選部門三二校から決勝一九校。その後入賞に向けてコンクールがスタートしました。

日体ダンス部は、富士山頂の妻「芙蓉の人より」のテーマで出場。私は偶然ドラマを観ていたので「あのドラマをダンスに？」ととてもびっくりしました。部員たちが白い布で雪山を、白い衣装で吹雪をイメージした表現で、富士山頂の一部がステージに現れたかの様で、とても素晴らしかったです。

最終日には、参加発表部門(アイスフィギュアスケートのエキビジョンの様な)上演がありました。日体大からは、一年生で構成された明るく元気の良いたても楽しい



ダンスでした。部員の皆さんが思いを込めて作った作品と全国大会のレベルの高さに感動し、来年度へ期待を繋ぎたいと思います。

実演会

武 菜穂子(四年保護者)

今年は、横浜アリーナにて、一月一日(水)が保護者と生徒、一二日(木)が一般と二日間の開催となった体育研究実演発表会。少しでも良い席で発表を見ようと、開場前から横浜アリーナは長蛇の列。

今年のテーマは、『紡ぐ』。『自分の中にある一番美しい言葉を水出しコーヒーのように時間をかけて純化していき、自分の大切な人に届ける。』そんな意味だそうです。

集団行動やエッサツサは、誰もが知るところで、今年の集団行動もマスコミから注目され、大成功に終わり、清原先生も、『何事も踏ん張り努力すれば結果が出る』とおっしゃっていました。その他にも、素晴らしい演目が盛りだくさんでした。この日に向けて努力を積み重ね準備して来たものばかりなので、その気迫が観客を魅了し会場は終始熱気に包まれ、拍手の嵐でした。

私も日体大の卒業生なので、学生の頃素晴らしい実演会を観てとても感動したのを憶えています。

日体大が刻んだ一三五年。これまでと、これから。

一人ひとりの学生の果てしない努力が、心と心を紡ぎ、会場を一つにしたからこそ、これだけたくさんの方々の感動させることが出来たのだと思いました。

学生達の普段の練習の成果をありのまま発表する場所。

体育研究発表実演会。

あつという間の三時間。

スーパードアスリート達から、たくさんパワーをいただきました。

東京オリンピックに向けて、日体大が更なる飛躍を遂げることを願い、娘が卒業した後も、ずっと応援し続けたいと思った実演会でした。

日体大バンザイ！



卒業にあたって

ポイントゲッターになるよりもチャンスメーカーになれる
竹之内 勝(四年保護者)

東京・世田谷キャンパスのエントランス(正門広場)に、日体大スピリットのシンボルである「チャンスの像」があります。これには「ポイントゲッターになるよりもチャンスメーカーになれる」という教えが込められています。

息子が「日体大に入学したい。」と言って来た日を、つい先日のように思い出します。思いもよらない言葉でした。驚きとともに、本学卒業の私にとっては、大きな喜びでもありました。入学と同時に体操部でお世話になりました。二・三学年時には、集団行動にも参加させていただきました。尊敬する先生方、憧れの先輩、そして切磋琢磨した仲間たちに、本当に恵まれた四年間でした。本学でなければできない体験をたくさんさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。一つの演技を完成させるために、全ての方々が「チャンスメーカー」となって支えてくださいました。保護者会の皆様からたくさん励ましをいただきました。本当にありがとうございました。

三月をもって息子は卒業となります。教職に就く息子が「児童生徒のチャンスメーカーになってほしい」と切に願っています。



チャンスの像

日本体育大学同窓会
「人の和」について
 会長 瀧澤 康二

東京都保護者会の皆さんには平素より同窓会に温かいご支援を賜り誠に有難うございます。お陰さまで同窓会は大学の急速な進化に何とか追いつき、積極的に支援できる体制が整いつつあります。特に、平成二八年度入学生から学生身分のまま同窓会準会員として同窓会からの支援を受ける仕組みができましたことは、誠に喜ばしいこととであります。このことは、法人理事会が決議した標語の一つ「ワンファミリイ化」を具現化したものであります。これには保護者会から寛大な心をもってご理解賜りました。ここに改めて深甚なる敬意と感謝の意を表します。

同窓会は「人の和」を大切にし、自らの活性化を図ろうと努力しているところであります。そのことを学ぶために二〇一五年一月一〇日に「成功事例に学ぶマーケティング講座」を開催させて頂きました。そこでのキーワード「CPTD」(Concept, Target, Process, Tool)は、私たちに活性化のための法則を教えてくださいました。私は、その講座を通して「会員が同窓会に何を期待しているのか？」という重要な問いに対して同窓会は満足のいく答えを出してこなかったのではないかと、ということが気が付きま

した。

そもそも真の友情を育むことは、容易ではありません。お互いに相手を理解し、相手の幸せのために自らの身を削って相手に尽くすことができれば真の友情関係はできないといわれます。ただ、お互い相手の身になって行動するということは難儀なことです。しかし、その難儀なことを乗り越えてこそ、その先に光を見出すことができるのだらうと思います。

同窓会が、今抱える問題を解決するためにはこのような考えのもとで努力しなければならぬと考えています。ちなみに私は、平成二七年一月三〇日付朝日新聞の「天声人語」で紹介されていた言葉がそのことを証明しているかのように感じました。それは、パリの惨事で妻を亡くした映画ジャーナリスト、アントワヌ・レリス氏がテロリストたちに呼びかけた次の二つのことばです。「君たちに憎しみという贈り物はあげない」「君たちの望み通りに怒りで応じることは、君たちと同じ無知に屈することになる」。

私は、このことばから改めて「人の和」を実現することの難しさを実感しました。また同時に、だからこそ、そこに大切な意味が潜んでいるということも確認できました。

末筆ですが、東京都保護者会の益々のご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

編集後記

東京オリンピック・パラリンピック開催の二〇二〇年まであと四年。東京オリンピックではきつと、日体大の学生が出場し活躍する事は勿論、会場スタッフなど何らかの形で、関わることも予測されます。つまり、日体大の学生が世界の大イベントを担う役割が大きくなるということです。

日本では、平成二三年に改訂されたスポーツ基本法でも、国民生活で果たすスポーツの役割が重要視され、スポーツを通して作られる社会が健康で活力ある社会の育成、引いては国際社会への貢献につながると書かれています。現在、スポーツは、スポーツをする人だけのものではなく、その周囲に

いるサポーターであるトレーナーや観客など、選手を支える人の存在もそのスポーツを発展させる重要な要素となるとも言えます。

私たち保護者は、学生たちの一番近いサポーターとして、これからも存在し続けたいと思います。そして、我が子が日体大を卒業したとしても、保護者としての気持ちはきつと変わらぬと思います。

この定期会報では、この一年間の保護者としての活動の様子と様々な行事の応援の様子やお気持ちを掲載することができました。ご協力くださった全ての方々に感謝申し上げます。

広報委員 瀧井(記)



ダンス部 (実演会より)



少林寺拳法部 (実演会より)